DXふわふわ要望 マップ手引書

独立行政法人情報処理推進機構 産業サイバーセキュリティセンター

中核人材育成プログラム8期生 卒業プロジェクト DXセキュリティ対策委員会

目次

1. はじめに	2
1.1「DXふわふわ要望マップ」の目的	2
1.2 想定利用者	2
1.3 活用シ―ンの例	2
2. マップの使い方	3
2.1 マップ使用の手順	3
2.2 マップの構成	3
3. 免責事項	4
4.謝辞	6

1. はじめに

1.1「DXふわふわ要望マップ」の目的

「DXふわふわ要望マップ」は、DX推進や業務改善の現場で寄せられる「曖昧で捉えにくい要望(ふわふわ要望)」を、関連するDXキーワードとともに可視化・整理するマッピングツールです。

現場の声を最大限に活かし、的確な対応方針の策定や施策の優先順位付けを支援することを目的としています。

1.2 想定利用者

本書は、主に以下の関係者を想定しています。

- ・ 中小企業におけるDX推進の現場部門担当者
- ・ 情報システム部門(情シス)担当者
- 企画部門扣当者
- ・ 業務要望の整理や企画立案を担うその他の関係者

1.3 活用シーンの例

以下に、本資料の活用シーン例を記載します。

- DX推進における初期のヒアリングフェーズ
- 経営層や現場から出てくる抽象的な要求の具体化
- ・ システム化対象の選定や優先順位づけの事前検討
- ・ プロジェクト立ち上げ前の合意形成支援

2. マップの使い方

2.1 マップ使用の手順

1. ふわふわ要望列より、該当の要望を選択してフィルターの「◎」にチェックを付けます。



2. 要望に対応したキーワードや概要等を閲覧することができます。

# +-	ワード	概要	利用例	必要となるもの	主なセキュリティリスク	対策			
								何か、若い人に ウケそうな施策 とかないの?	
							at the state of th	-	4
4 75989	10	総実のモノ(投稿で製品、建物なご をコンピュータ上に 同じ状態で再発する技術のこと。センサーや37年末などか の再版に必要は情報を収集する。実際の設備に負荷をかけ ずに対象が分析を可能とし、投資保守で増減の効率化、投 機の記憶を対策することなどに使用できる。 製造業でよく使われている投稿であるが、近年では建設や	- 工場の機能を信任を加に共現して改得予測に返用 - 連絡の設計を信任を加てシスコレーションし、安全・導格を検証 - 単の走行テストを影響を禁じ知時間に発施	- 情緒を収集するためのセンサーやのT機能など ・大阪のデータを発体、別度するためのクラウド基盤・ サーバー ・3Dモデリング・シミュレーション技術			0	0	1
8 7-7-75	>9	人間の脳の仕組みを求ねた技術で、英雄や哲率、文章など から特殊を目載で学習し、相談や分類ができるようにする 方法である。人工知能の中でも特に英意な分析が可能で、 検索の高い予測や認識に使われている。	・雌写真から本人を目動で見分ける機能 ・医鼻を開き取って文学に変換する ・工者で不良品を裏着で発動可をする	・大量の学者データ ・同性的公計算環境(サーバーなど) ・モデルの学者・海界を行うソフトウェア	学習に使うゲークに個人場面が含まれていると、それが外部に漏れるおそれがある。また、展 思わる文章で学習内容を次さんされるリスクもある。	学能データは心臓な功能だけに依り、個人が特定されないように加工する。さらに、データや検察をチェック する仕組みを扱けることで、安全で任いの機能ができる。	0		\perp
10 MM 234		カメラなどで解析した画像や動画をコンピュータが成み取り、人や称、文字などを見かける同様である。 見たものの あやの。 動物となりの機会をとくが開始を行い、日勤での頃 や地位を行う、人の母で情報しなくても何容を理解できる ため、動物や搭乗、約約、サービス分野などで幅広く繰り 打ている。	- 助記カメラが人の動きを目載で検索する - 環境をレジで需義とはで認み期る機能 - 皮膚素能がら異なり可能性を含動機出	- 実達データの学部用データセット - 実金が国家のなセラルウアルゴリズム(対象の特殊を とらえる技術) - 興保線度カメラと的理器質	カメラがとらえた神像に個人指摘が含まれていると、それが外に関れるおそれがある。また、 ADDロ部特別が必ざんされたり、不正に利用されたりするリスクもある。	場別の4位は限を数率で採用し、採用途の4倍や立成する。 不必由の搭乗組以上流が背着とは、発度を用め、モデルファイルは推開装度で安全に再議する。	0	0	
スマートテ (オフィス	FJ(-{-7, CM(M)	スマートフォンやタブレット、ノートPCなどの携帯電車を 送用し、外出大や回転でも批判システムや実施アプリにア クセスできる社組み、 参手を繋わず背縁がかり取りができることで、異席のス ピードと連載性の向1につながる。	- 製菓製品がタブレットで要点を紹介 - 在意や個性をそれ者で確認・入力	・スマートゲルイス ・仕事物のアプリ ・ 支をした連絡環境	端末の置き歩わや途離により、性内の大事な情報が外に遅れる可能性がある。 私用の端末でせ 事をすると、情報管理があいまいなることも。	成れのロック位金や、温間でデータを消せる機能(温度フィブ)を使う。会性で使う流れは間間ソフト の化め で一元間間する。	0	0	
25 メタバース		インターネット上に構築された30の影響を整に、アパターを着して参加・欠約・契約・20歳 を設定すると思わっ たやスマートラスン、明確認知なさま使って、リアルタイム で飲えとやっとりが可能。 イベント開発や機能展示、異常レーニングなど、依拠を 間なっては50枚続ができる。	・パーテャル最高会や場所認明会の開催 ・社内研修や退降地のチームとルディングに認用 ・情報系統サショールームでの製品級力や販力支援	- 伝統立場を構築・振省するブラットフォーム ・アパターや空間デザインなどの影体ツール ・利用者がアクセスするためのたかが高まなどの機器	仮理点型での行動から個人が特定されたり、不正のグインや経動機能の危動が発生する可能な がある。 最近からの存着によるハッキングや対策が決め「無効が影響を引き起こす。	(最人型値を扱う他にし、通信を与えた二等級的記を導入します。 保険できるサービスを利用し、利用率へのセネコリティ教育も高度です。	0	0	

2.2 マップの構成

列名	内容
キーワード	DX推進における重要ワード名が記載されています。
概要	キーワードの概要や利点が記載されています。
利用例	キーワードの活用例が記載されています。
必要となるもの	キーワードを利用する上で必要となるものが記載されて います。
セキュリティリスク	キーワード特有のセキュリティリスクの概要について記載されています。
対策	セキュリティリスクを軽減するための対策概要が記載されています。
ふわふわ要望	ふわふわ要望一覧が記載されています。

3. 免責事項

1. 著作権及びその他すべての知的所有権

「DXふわふわ要望マップ」(以下、「本マップ」)」に関する著作権及びその他すべての知的所有権は、「情報処理推進機構産業サイバーセキュリティセンター中核人材育成プログラム8期生~DXセキュリティ対策委員会~(以下、「本プロジェクト」)」に帰属する。

2. 位置付けと限界

本マップは、DX推進や業務改善プロジェクトの初期段階における対話・要望整理の支援ツールとして提供するものです。

内容の網羅性・完全性を保証せず、分類や表現には作成者の主観や解釈の相違 が含まれる場合があります。

セキュリティリスク欄に挙げた概要は一般的ケースを示すものであり、導入先システム毎に残存リスクの再評価が必要です。

※情報処理安全確保支援士によるチェックを受けた上での、DX推進・導入を推奨致します。

3. 保証の否認

本マップおよび付随する情報は、特定の目的への適合性、有用性、安全性等について、いかなる明示または黙示の保証も行いません。

4. 専門的アドバイスの非提供

本マップは法務、会計、税務、技術的アドバイスを意図したものではありません。 必要に応じ、各分野の専門家にご相談のうえご利用ください。

5. 第三者権利不保証

本マップに含まれる情報の利用により第三者の知的財産権その他権利を侵害しないことを保証するものではありません。利用者自身の責任において権利処理を 行ってください。

6. 責任制限

本マップを利用または参考にした結果生じたいかなる損害・損失(直接損害・間接 損害・逸失利益を含む)についても、当方は一切責任を負いません。

当方の賠償責任の上限は、本マップ提供時点で利用者が実際に負担した直接実損額を超えないものとします。

最終的な方針決定や施策実行は、関係者間の合意形成と責任者の判断のもとで行ってください。

7. 編集•再利用

本マップは自由に編集・カスタマイズいただけますが、文脈を逸脱させる改変や 誤解を招く編集はご遠慮ください。

改変版をインターネット上で公開・再頒布する場合は事前にご連絡ください。

8. 組織の公式見解との関係

本マップの内容は作成時点でのプロジェクトメンバーの見解に基づくものであり、 IPA(情報処理推進機構)や所属組織の公式見解を示すものではありません。

9. 有効期間

本マップの有効期間は発行日より2年間(2027/8/31まで)とします。

10. 準拠法•裁判管轄

本マップの解釈・適用には日本法を準拠法とし、本マップに起因または関連する 紛争については、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とします。

4.謝辞

「DXふわふわ要望マップ」および本手引書の作成に際し、現場の最前線でDX推進に携わる皆さまからいただいた多様な視点と貴重なご示唆により、本マップの内容を一層ブラッシュアップすることができました。

特に、抽象的かつ曖昧な要望を具体化するための実務的な知見は、本マップの方向性を決めるうえで大きな指針となりました。

また、要望整理の手法や分類方法についての活発な議論を通じ、数多くの建設的なご意見を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

本プロジェクトは、IPA産業サイバーセキュリティセンター中核人材育成プログラムの枠組みで進められました。門林雄基先生、満永拓邦先生をはじめ、関係各位の皆さまには、節目ごとに温かいご助言とご支援を賜りましたことを、この場を借りて謹んで御礼申し上げます。

プロジェクトメンバー一同、心より感謝申し上げます。

プロジェクトメンバー

【リーダー】渡邊 友明

【サブリーダー】 守屋 友貴

> 【メンバー】 木村 有佑 佐藤 湧太 岩崎 耕祐